The Journal of the Department of Social Welfare,
Kansai University of Social Welfare Vol.*15-1, 2011.9*
pp*7 − 8*

「故・坂本忠次教授追悼記念号」に寄せて

関西福祉大学　学長　安井　秀作

本学社会福祉学部の研究紀要については，歴史を重ね，この度，第15巻第1号の発刊の運びとなった．この号は，本学の発展に多大な貢献をされてきた「故・坂本忠次教授追悼記念号」として発刊される．

坂本先生は，昭和32年に東京大学文学部西洋史学科を卒業され，その後，法政大学に学ばれ，経済学博士（京都大学）の学位を取得された．昭和54年4月には，岡山大学法文学部教授になられ，同大学の経済学部長，大学院経済学研究科長などの重責を担われて来られた．

本学は，平成9年4月に関西初の福祉系単科大学として誕生したが，先生は，その2年後の平成11年4月，社会福祉学部教授として赴任され，本学の発展のために，長きにわたって盡力されてきた．そして，平成21年4月には，大学院社会福祉学研究科長となられ，研究科の発展にも大きな貢献をされた．本学のこれまでの歩みは，坂本先生とともにあったと言っても過言ではない．

自身の坂本先生と最初の出会いは，本学に学長として赴任する前のことであった．福祉サービスの第三者評価に係わっていた関係から，これまでの取り組みをまとめみようと，本の出版を企画したが，私たちだけではとても力不足の感があった．そこで，財政学の権威であられる先生にお願いすればと，研究室を訪問し，企画の意図を説明，編集者をお願いした．先生は，私たちの話にじっと耳を傾け，いくつかの的確な質問をされた後，編集者を快くお引き受け頂いた．

その後，平成22年10月，本学の学長として勤務することとなり，先生と再会することとなった．先生は，私の母校である岡山大学で教鞭をとられ，多くの学生を育ててこられた．ご自身も，世界的に知られる素晴らしい実績を残された．先生を慕う学徒も多い．そのような先生にとって，新米学長は，行政官としての実績はあっても，大学教育の経験は浅く，誠に未熟者と思われたに違いないが，そのような態度を見せることもなく，いつも，にこにこと穏やかな雰囲気の中で，実に正鵠を射た適切なご指導を頂いた．

先生が開設に盡力された社会福祉学研究科については，文科省への報告も無事終わり，先生のご指導の下，新たな第一歩を踏み出せると考えていた矢先，突然の訃報に接した．これからという時に，誠に，無念の想いであった．

先生とのおつき合いは，３ヶ月と10日間と極めて短い間ではあった．しかし，今，思い起こしても，充実した実り豊かな時間でもあった．先生の学問への取り組み姿勢，学生への接し方，仲間の先生たちへの接し方，その一つ一つから，多くのことを学ばせて頂いた．

私たちは，そのような先生の行動を，これからは，一人一人が実践すべきと肝に銘じなければならない．

そして，先生が地道なご努力を重ね，ここまで育て上げられた，私たちの大学をさらに充実させ，地域になくてはならない大学へと仕上げていかなければならない．

そのような決意を述べさせて頂き，「故・坂本忠次教授追悼記念号」に寄せる言葉としたい．

平成23年9月20日